

ACOS-4 移行に伴うMMCF移行作業(概要)

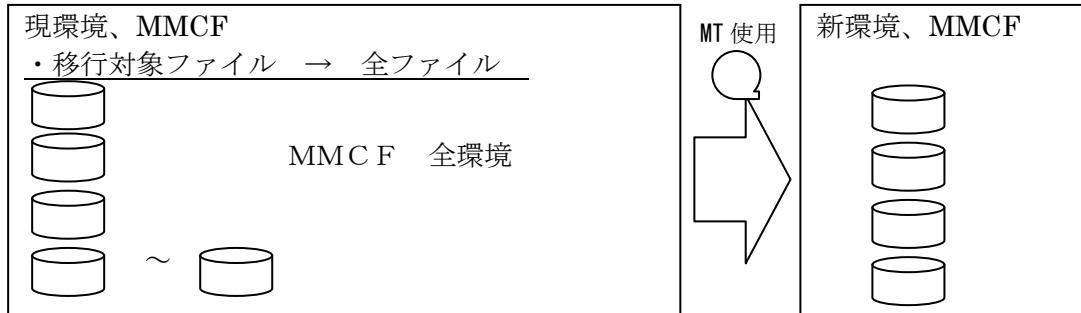
NISMAIL/MMCF (ACOS-4 版 NISMAIL) の ACOS-4 移行について概要を記述します。
移行作業時に考慮するポイントとしては、「環境移行作業」と「移行テスト」があります。

1. 環境移行作業

MMCFの環境を移行する場合に大きく2通りの方法が考えられます。

① MMCF全環境のコピー

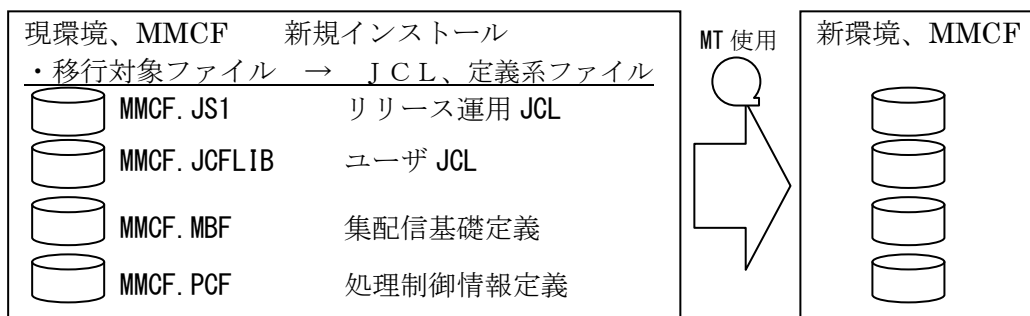
MMCFは環境を全てコピーすることで動作します。



- ※ ファイルコピーはボリュームセーブまたは ACOS-4 ディスク移行ツールの使用を推奨します。
- ※ ファイルコピーと合わせてファイルカタログも移行しなければなりません。
- ※ 新 ACOS-4 環境で DEVCLASS/MEDIA が変わる場合は、リリースJCL(MMCF.JS1)、ユーザJCL(MMCF.JCFLIB)及びMMCF環境設定(MMCF.TMFUP1)の DEVCLASS/MEDIA を修正する必要があります。
- ※ 新 ACOS-4 環境でユーザカタログ名が変わる場合は、リリースJCL(MMCF.JS1)及びユーザJCL(MMCF.JCFLIB)の¥CONSIGN 文を修正する必要があります。
- ※ MMCFはOS提供SOCKET関数を使用しています。OSが変わる場合は新 ACOS-4 環境でLM再作成(再リンク)を行ないます。
再リンクJCLは MMCF.JS1(MMCF.TCFLINK_FILE)を使用します。
- ※ MMCFは相手 NISMAIL との最後にファイル転送を行ったファイル通番(SEQ)を保持しているため、ファイルは全環境コピーで環境を移行する場合に旧環境の最終状態を移行する必要があります。
- ※ リリースJCL(MMCF.JS1)、ユーザJCL(MMCF.JCFLIB)は新規作成・更新を凍結するか、新環境も合わせて変更する必要があります。
- ※ 現環境に送信待ちファイルが存在する場合は、そのまま新環境にコピーされます。

② MMCF新規インストール

新 ACOS-4 環境にMMCFを新規にインストールし定義情報やJCLを再登録する。
(定義情報やJCLが現行ACOS-4からファイルコピーすることができます)
(MMCFのメールアドレス:転送データキュー内のデータは移行できません)

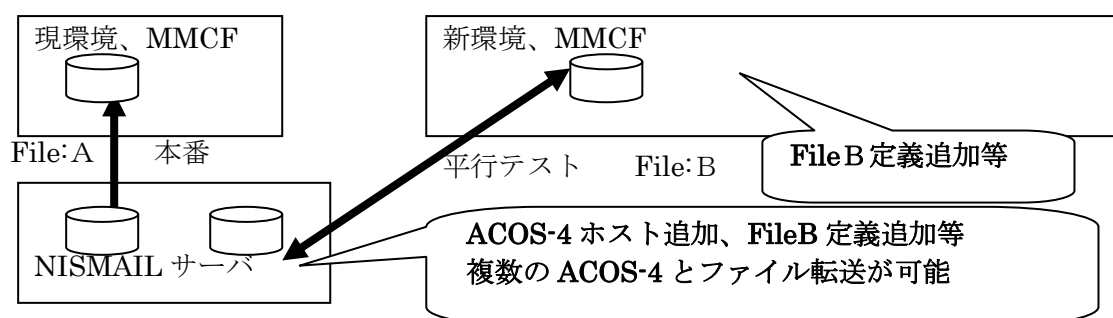


- ※ 新 ACOS-4 環境で DEVCLASS/MEDIA が変わる場合は、リリースJCL(MMCF.JS1)、ユーザJCL(MMCF.JCFLIB)及びMMCF環境設定(MMCFTMFUP1)のDEVCLASS/MEDIAを修正する必要があります。
- ※ 新 ACOS-4 環境でユーザカタログ名が変わる場合は、リリースJCL(MMCF.JS1)及びユーザJCL(MMCF.JCFLIB)の¥CONSIGN 文を修正する必要があります。
- ※ MMCFはOS提供SOCKET関数を使用しています。OSが変わる場合は新 ACOS-4 環境でLM再作成(再リンク)を行ないます。
再リンクJCLは MMCF.JS1(MMCFTCFLINK_FILE)を使用します。
- ※ リリースJCL(MMCF.JS1)、ユーザJCL(MMCF.JCFLIB)、定義系ファイル('MMCF.M.MBF','MMCF.M.PCF')は新規作成・更新を凍結するか、新環境も合わせて変更する必要があります。

2. 移行テスト

① 平行テスト

併設期間に現行機で本番業務を継続しながら、新環境でファイル転送または受信後起動 JCL の確認を行う場合は、相手 NISMAIL サーバに新環境 ACOS-4 の設定を追加してテストを行うことになります。



② 切り替えテスト

本番切り替え時と同様に新環境 ACOS-4 のIPアドレスを一時的に現環境 ACOS-4 のIPアドレスに切り替えて確認を行ないます。相手NISMAILサーバの変更はありません。
(切り替えテスト中には現環境 ACOS-4 は停止する)

切り替えテストを行なった時は、現行機でファイル転送業務が全て終了した状態で切り替えを行なう。
また、切り替えテスト後に未処理のテストデータを残さないことに注意する。

- ※ 転送待ちファイルが無いことを事前に確認する必要があります。

以上